



# 舞鶴小だより

平成31年2月4日号 文責 学校長 相河竜治

## “特集” 学校評価アンケート結果

学校評価の評価項目は17ありますが、その中でもこの3年間の指導重点項目である「学力向上の取組『主体的・対話的で深い学び』の学習」と「地域を巻き込んだあいさつ運動」、「そうじ（「無言清掃」の取組）」を取り上げました。

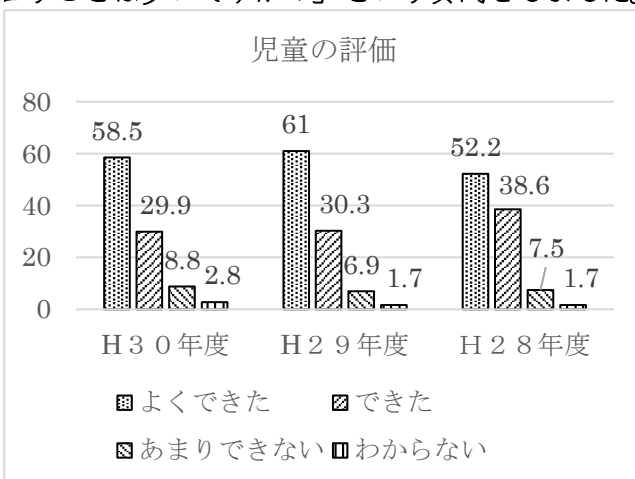
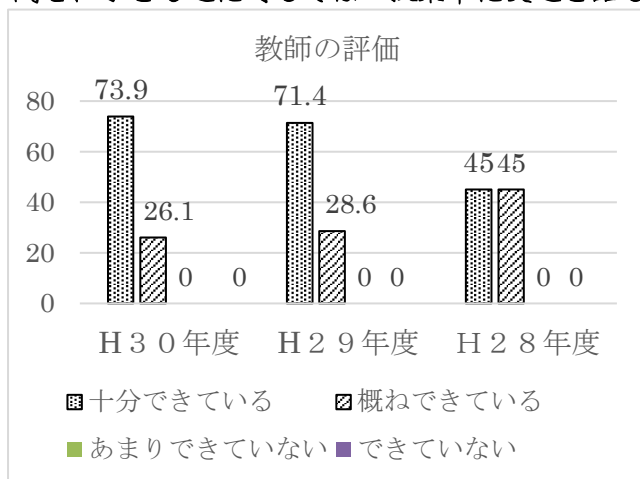
なお、今年度の学校評価の「保護者アンケート」でとても驚く結果が出ました。それは…

**17ある評価項目の中で、なんと16項目のA評価（十分にできている）が向上しました！**

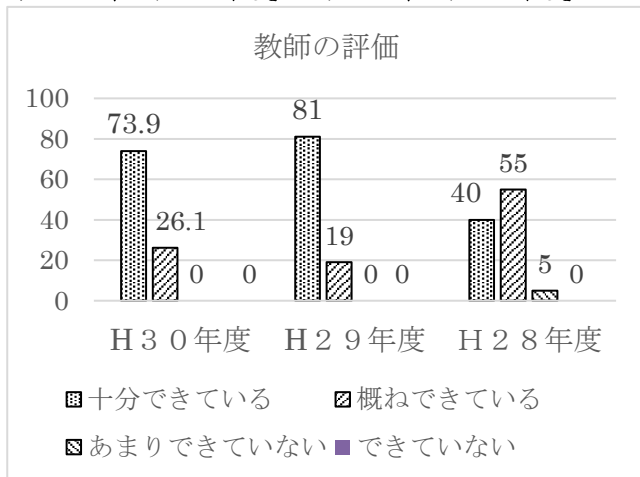
先生方の取組とそれに伴う子どもの成長を積極的に評価していただき、心より感謝しています。

### 特集1 学力向上の取組（「主体的・対話的で深い学び」の学習）の推進

先生方には「主体的・対話的で深い学び（特に学び合い）の指導に努めていますか？」という質問を、子ども達に対しては「授業中に友達と話し合うことは多いですか？」という質問をしました。



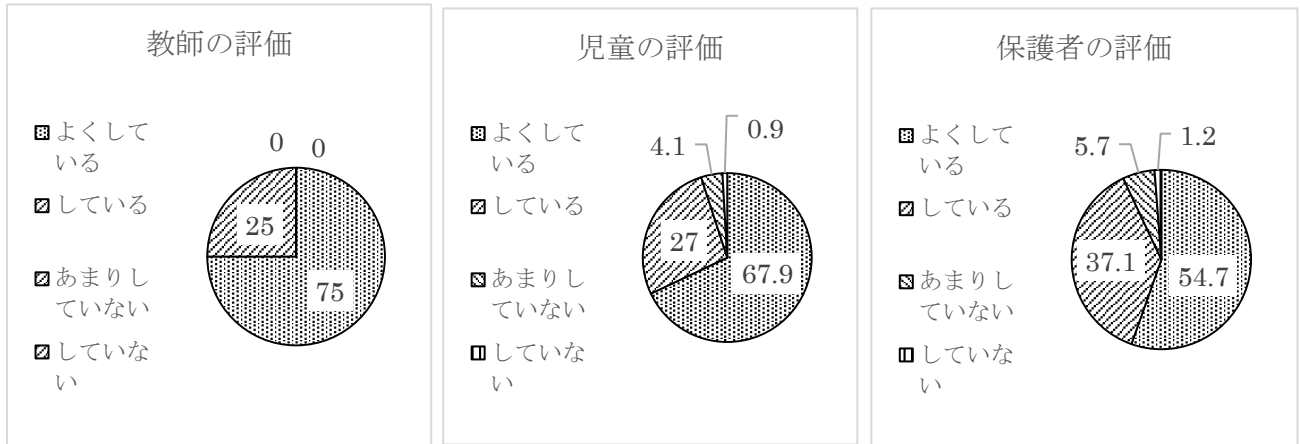
先生方の「主体的・対話的で深い学びの指導が十分にできている」という回答が、平成28年度から平成30年度にかけて、3年連続して向上していることから、先生方が学力向上に積極的に取り組んでいることがよくわかります。児童の「授業中に友達と話し合うことはとても多い」との回答が、平成29年度に対して平成30年度は若干（2.5ポイント）減少していますが、約6割の高い水準で推移しています。これは昨年度に引き続き今年度も、全校の先生方が協力して校内研究で「『主体的・対話的で深い学び』を実現する授業づくり～問題解決型のプロセスを工夫した学習を通して～」について取り組んだ成果だと思えます。



それに伴って、先生方への「問題解決的な学習を積極的に取り入れ、主体的な学習姿勢を育成するようにする」という質問についても、平成30年度は平成29年度から若干減少したものの、「十分にできている」が依然として高い水準となっています。

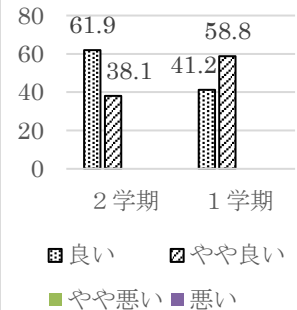
## 特集2 地域を巻き込んだあいさつ運動の推進

「地域を巻き込んだあいさつ運動」の教師と児童、保護者の評価が次の通りです。

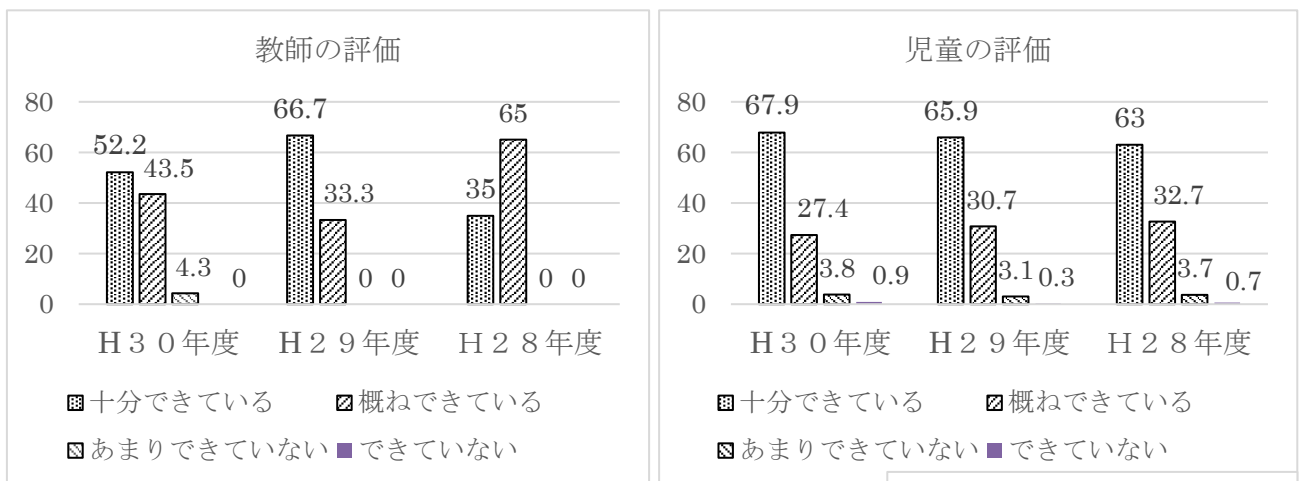


「あいさつをよくしている」と回答している割合が、教師と子ども、保護者で比較すると少しずつ減少しています。あいさつは、まだまだ課題があるということで、先生方は毎学期、あいさつができているかどうか先生方のアンケート調査を行い、その結果に基づいて改善方策を策定しています。その結果と3学期に取り組む改善方策が次のとおりです。

- ① どの子にも意識づけができるよう、繰り返し継続して指導していく
- ② 大きな声であいさつができるよう意識づけをさせる
- ③ 人より先にあいさつする取組を行う
- ④ 校内でのあいさつは定着してきているので、旗振りの方やボランティアの方へ積極的にあいさつができるよう指導していく。



## 特集3 そうじ（「無言清掃」の取組）の推進



「無言清掃」について、児童の評価は3年連続で高まっているのに対して、教師の評価が高まっていません。そこで、あいさつと同様に毎学期先生方のアンケート調査を行い、その結果に基づき、次の改善方策に全校で取り組むことになりました。

- ① 無言清掃をすることの意義について、繰り返し指導する
- ② 教師の目の届きにくい所でも、多くの目で掃除の様子を見る
- ③ 無言清掃の成果を伝え、頑張りを認め、定着させる

